

殘本なく手に入れることもむづかしくなつた。今度公にされた標記の者はもとのものを増補改訂せしものであつて、最近に至る調査の結果を綜合してある故、臺灣の地質及鑛産を知るには之に依る外はない。説明書は舊版と同じく第一篇地形第二篇地質、第三篇鑛産、第四篇應用地質に分ちて記述され特に鑛産に就いて記述する所が多い。猶説明書中には多くのコロタイプ版が挿入してあつて、新高山の寫眞も二つある地形と地質は市川雄一理學士により、鑛産應用地質は高橋春吉技師によつて編纂されたのである。(N)

雜 報

○紀伊日高郡白崎村の紡錘蟲石灰岩 日高郡由

良から北西に亘つた半島部は鳥ノ巢石灰岩を挾んだ鳥ノ巢統が廣く現はれて居る、私共は此の地方が總て鳥ノ巢統だと思つて居た、今夏京都帝國大學地質學教室の館林寛吾君が此の地方を歩いて採集して來た標本のうちに、白崎村黒山と白崎の石灰岩があつて共に *Fusulina japonica* を含み黒山のものには *Neoschwagerina craticulifera* もあり其の他有孔蟲や蘇蟲が遺入つて居る。この二箇所の石灰岩は共に大きな露出を爲して居るもので殊に白崎のものは東西五百米以上に達する。この北方の衣奈村の石灰岩には那智圖幅説明書による *Microbacula* があること云ひ鳥ノ巢統とされて居たが、最近

紡錘蟲のあることも判つた。

石灰岩以外の地層は角岩、頁岩、砂岩であつて中生、古生を外観上區別することが困難である。恐らく角岩には放散虫があることであらるから化石の上からは放散虫をたよりにして古生、中生兩界を別けなければならないと思はれる。兎も角鳥ノ巢統中に二疊紀が挾まれてあることは著しいことで、最近長尾氏は有田郡栖原北方の紡錘蟲石灰岩について礫であるか、眞の露出であるかを決定されかけてをられるやうであるが、(地質學雜誌九月號)栖原北方のものとは石灰石を採掘した跡で礫ではなく數間の露出が道から東に一丈登つた桃畑の奥にあつた。つまりこんな古生代層のパツチが西南日本外帯の中生層中には衝上か何かの構造上の變動で狭く挿入してゐるのである。大きく云へば西南日本外帯の地層排列の有様は一般に考へられて居る様には規則正しくはなく且つ整然たるものでもない。(中村)

○朝鮮の大理石 朝鮮に産する大理石は色彩、種類共に豊富である。殊に咸北城津附近産の紅霞大理石は内地に似

寄りのものなく、褐色であつて、人に好まれ古くより知られ多く用ひられた。其の他白及鼠の霞大理石も優秀で所々光線を反射して美しい色を表はす。又平南順川郡から産出するものは小豆色大理石と稱し、淡赤色で石質密にて斑脈なく優秀である。新築の總督府廳舎で、内部に使用すべき朝鮮産大理石材は左記の九種を用ひた。此の外に安奉線下馬塘産の大理石三種をも併用した。

一、紅霞大理石 咸北鏡城郡鶴城面將峴里魚山洞
 二、鼠紋大理石 咸南定平郡府内面
 三、暗綠色大理石 咸南新興郡下元川面富興里
 四、小豆色大理石 平安順川郡慈山面青龍里
 五、淡雲大理石 黄海金川郡古東面江亭里(岐灘)
 六、黑色大理石 同 上
 七、白色大理石 黄海平山郡西峰面藏六堂里
 八、縞鼠大理石 京畿開城郡上道面楓川里
 九、蛇紋大理石 京畿楊平郡雪岳面殷沼里

此等は石質優秀で且つ運搬便利な場所にあり、産出量も相當多量なものである。猶上記のもの外大理石の産地次の如し

咸北 咸津郡鶴城面達利里長洞、細洞
 咸南 端川郡南斗日面堡巨里梨上里
 同 新興郡下元川面興慶里
 平南 江東郡馬山面下端里
 黄海 黄州郡
 同 海州郡
 同 金川郡古東面舊邑里帝驛山
 京畿 富川郡蘇來面食谷里
 同 長湍郡長道面社梅里
 同 楊州郡伊淡面安興里
 同 楊平郡楊平面

○金の生産統計 一九二五年までの金の産額は左の如し

トランスバール 一八四〇年 一八四九年以降

ローデシア	六,000,000	一八六六年
西アフリカ	一六,000,000	一八八〇年
濠洲	七五〇,000,000	一八五一年
加奈陀	一五〇,000,000	一八六〇年
英領印度	七五,000,000	一八〇〇年
英吉利帝國合計	一,八八〇,000,000	
北アメリカ	八七五,000,000	一八四七年
ロシア	四六五,000,000	一八〇〇年
メキシコ	九七,000,000	一八七七年
其他	三〇〇,000,000	
總計	三,九四〇,000,000	一八〇〇年以降

右の表にて見れば、合衆國は今日までに八七萬磅の金塊を世界に供給し、トランスバールは二・四%を寄與し、英帝國は約半額を生産せり、

一九二五年度の産金比率

トランスバール	五・三%	ローデシア	三・〇%
西アフリカ	一・六%	濠洲	三・六%
印度	二・一%	カナダ	九・一%
北米	二・五%	メキシコ	四・一%
ロシア	五・六%	其他	八・一%

蓋し大戦以前は金産額は年を追って増加し一八五四年より一八九一年迄の間に年々二千萬磅乃至三千萬磅を産出せしが、一九一五年には九七、一一四、〇〇〇磅といふ最高記録に上れり一九一五年以後産出著しく減退をせしめし一九二二年には六六

七二三、〇〇ポンドとなりて最少の記録を告ぐるに至りし、其後や、恢復の途に上りつゝあり。

○沿海州の水田

西比利亞で一八五〇年頃に興凱湖岸にて米が作られたといふ話はあるが明でない、一九一七年になつて鮮人が最初ニコリスク附近で水稻業をはじめ大に利益を得た、一九一九年には三百町歩からの耕作を見た、他の農作物よりも収益が多いので、一九二一年には七千町歩に激増した。同時に米價の騰貴に刺激されて一九二二年には一萬二千町歩に達した、其後水田面積は著しく減少し本年は七千八百乃至八千デシヤチンである、(一)デシヤチンは我一町(一反四畝)この原因は日本軍の撤退による米價の暴落で、武力干渉當時は一布度(約四貫三百六十目)が三留五十哥したのに、一留十哥に下落したのによる、それと同時に同じ耕地を七八年間断なく使用すると雑草が出来て收穫力が減少する故に今度は旱田にして水草を枯らさねばならぬからでもある沿海州の主要産物である石炭、木材及漁業の三つを見ること一九二五年に石炭は三、一八一、七一〇留、木材は五、三〇八、〇〇〇留、魚類は五、四七八、八〇〇留であつたのに玄米は二、三四〇、〇〇〇留であつたから石炭の六八%木材の四四%海産物の四三%に該當する米の産額があつたことになる。

一九二五年の同地方の小麥は三萬三百町歩を耕して二百九十五萬留を産出したのに米は七千八百町歩でありながら二百三十四萬留を産したから、水田生産力は小麥の三倍餘であるこの勢で見るに、沿海州の農業では水田は尤も有望である

とせればならぬ、將來沿海州で水田可能地の面積を寺尾博士は二、三百萬町歩といつたが、實際は多大に見積つて四十萬町歩しかないらしい。

從來の植物成長期の温度が三千度以上ない米が出来ないといつたが、最近二四七三度に過ぎない、北海道でも米作に成功したのであるから、沿海州で二千四百度乃至二七一六度の氣候の處では勿論米がされる筈である、昨年神戸で米一擔十九圓にて取引された、これは一布度四留九哥であるしかし沿海地方から神戸へ持つて行つて一布度三留六十哥なれば算盤がされる、換言すれば沿海地方から日本へ輸入する可能力は十分あるのである。四十萬町歩まで水田にしたところで、其市場を見出すには苦しまぬであらうとは彼地の専門家の意見である蓋し水田地はハッロフスクから南浦壙までウスリー河の沿岸である、ハッロフスク附近では既に數年カザケウイチエヴォで水田が成功してゐるのである、其尤も良田はニコリスク、ウスリースキー地方にあるといふことである。

○シベリア鐵道の改善

近時露國の鐵道恢復したるにより亞歐間の急行列車圓滑となり、シベリア鐵道によるもの日々に増加す、日本内地より西歐主要都市まで、所要日數十五、六日前後、歐洲航路によるに比し日數に於て約三分の二、費用に於て約二分の一を節減しうるに至れり。

驛名	曜日	日數	發	着	備考
東京	土	第一日	午後	九・一五	
長春	火	第四日	午後	九・〇〇	着滿洲時刻
			同	九・五四	發乘換

ハルピン 水 第五日 午後 七・一五分 ハルピン 時刻乗換

マンチユリ 木 第六日 午後 八・三〇分 時刻乗換

モスコウ 木 第十三日 午前 一・〇二〇 時刻乗換

リガ 土 第十五日 午後 一・二二五 時刻乗換

ベルリン 日 第十六日 午前 六・一五〇 中央時刻

ロンドン 月 第十七日 午後 七・四〇〇 中央時刻

又ハ、パリ 月 第十七日 午前 七・三〇〇 中央時刻

各地標準時、日本標準時正午、滿洲標準時午前十一時、ハルピン標準時午前十一時廿六分、モスコウ標準時午前五時(即東經三十度の時刻)中央標準時午前四時(即歐洲中央時刻にして、東經十五度の時也)

客車：西比利亞には軟床車と硬床車即我國の二等と三等の別があるが、硬床では長途の旅行が出来ぬ、急行には奮ワゴンリーの寢臺がつく、一等が二人室、二等が四人室である、乗車券はシヤパンツトリストビエローで日滿聯絡切符を買ふがよい、ソツイエツト入國乃至通過には、ソツイエツト領事の査證した旅行券があることは勿論である。乗車賃は左の如し。

東京伯林間	一等	二等	三等
(釜山、ハルピン、モスコウ、リガ經由)	四九、六圓	三三、三	二六、三

東京巴里間 六七九、〇七 五〇〇、八六 三九〇、〇〇
東京倫敦間 六三三、三三 五二二、〇〇 三三二、七六

税關検査が不便である、ことに露國への入國の場合に厄介が多い、故に滿洲里驛では日本人の通關代辦業者があるから、手荷物一個につき五十錢の手数料で利用するのがよろしい。

○暹羅の灌溉事業 一九二二年(暹曆二四五五年)に旱害で米が大不作であつた、めに暹羅國政府は印度政府よりトーマスワードを招聘して、メナム河を中心として中央平原一帶の灌溉を調査設計せしめた、苦しい財政の中から一九一五年に着手して、一九二四年にはプラサツク南運河を竣成した

延長九十七基米プラサツク川を基點として堰堤をつくり、それから百六十キロの小路を通じて十萬ヘクタールの地に供水する事になつた、これと同時にプラサツク川の航運をも可能ならしめた、メナム中央平原では年雨量千秊乃至千五百秊である、しかし米作は一千八百秊以上の雨量がある、この不足をこの灌溉で補つてゆくの、従來のごとき原始的な灌溉が愈科學的に代ることになつた、將來この運河の計劃を進めてゆく、暹羅の米作は刮目すべきものになると思はれる。

○石油の試掘に於ける微生物の層序學上の價値

近年地層の同定が、石油の試掘に於て著しく重要な度を高めたが試錐のコアとして出て来る岩石の鑑定だけでは、確實に地層を同定し難いことが多いので、其中に包藏せる微生物の研究が愈々重要視せらるる様になつた、コアの中で軟體動物

物(貝類)等の遺骸は、多くは破碎せられて原形を留めぬから是非微物の研究が地層の同定に最も切要な事と爲る、即ち有孔蟲、蘚蟲、放散蟲、オストラコダ、珪藻類、海綿の骨片などを出来るだけ精密に鏡檢鑑定して、格段なホライズンを區分し、含油層の位置の推獎に資せねばならぬ、有孔蟲集團の系統的、組織的研究は、近年米國に於て長足の進歩を遂げたが、ツオウガン氏(Dr. T. W. Vaughan)の如きは、有孔蟲が果して地層のホライズンを決定するに足るほどの層帶差異のあるものなりや否やを疑て居る、彼の説によれば、有孔蟲の微小なるものの中で、地層のホライズンを決めるに有意義なもの、概して百分中三乃至一二で、最大二五に過ぎざるべく、八割以上九割七分迄は層位決定の價値を有せぬであらうと、ヨーロッパの石油地質學者や古生物學者中にも、亦同様の意見を有するものが若干ある様である、此懷疑は、有孔蟲が時間的にも空間的にも、分布の頗る廣い事に基いて居る蘚蟲類に就ては、シュツケルト氏(Schuchert)は、同定上の價値を認めて居る、蘚蟲類には Cyclostomata や Cheilostomata の二目がある中、前者は保存が完全で無い、鑑別が六ヶ敷が、後者は微片でも其特性を鑑別するものが出来、從て其生活した時代、水の深さ、溫度、海底の模様をも推測が出来、米國のカヌ(Cann)、バスター(Bassler)兩氏は、北米の古第三紀蘚蟲類七四二形を區別した。

オストラコド(Ostracods)は、英國のツェルデン統で實現した通りに、時代表示者として價値あるもので、メキシコ灣

沿岸の石油試錐井から出て來た。

其他放散蟲、珪藻類、海綿の骨片や、海綿の刺の如きものも、恰かも岩石中に折々存在する事のある鑛物が、岩石の對照研究上に新光明を附與する事がある様に、地層の同定上に新解決の鍵を提供する事のあるべきは當然であらねばならぬ只研究者は各所個々の産出から、地方的并に層位的の聯關を研究闡明すべきである、兎に角米國の學者達が、地層の對比上、微生物の研究に留意し、著々其歩武を進めつゝあるのは大に學界の注意を促すに足り、純粹の學術的研究が、油田の經濟問題上に如何なる應用的價値を發揮すべきかは、之を將來に期待すべきである。(Nature No. 2946, Vol. 117, 抄譯油蟲生)

○ペルシヤの石油產地

ペルシヤ國の西部カルン Karun 川の中流シュスター Schuster 市の東方にマイゲンナフチエン油田があつて(海岸より三三〇軒、海拔二〇〇米)東南に延長する背斜をなし、年産三千五百萬パーレルの石油を産出すといふ。油田は一九〇八年頃から注意されてゐたが、最近に著しく擡頭して來たものである、次に一九二三年以來のペルシヤ産油額と世界産油額とを掲げる。(表の單位は百萬パーレル)

國名	一九二三年	一九二四年	一九二五年
米	七三	七四	七五
メキシコ	一五	一〇	一三
ロシア	一五	一〇	一三
亞	一〇	一〇	一〇
亞	一〇	一〇	一〇

南米	三〇	六	四〇
英領及蘭領アジア	三三	三三	三三
ハルシヤ	二元	三三	三三
ヨーロッパ	三	五	三
日本	二	二	二
エチオプト	一	一	一
其他	一	二	二

(Zeitschrift für Prakt. Geol., 34. Jah., 1926, Heft 4.)

○ルクセンブルクの鐵鑛業 今世界の主要産國中に

於けるルクセンブルクの位置を見るに

國名	大竈現在數	銑鐵生産力	鋼生産力
米國	三九	九,〇〇〇,〇〇〇噸	五,〇〇〇,〇〇〇
獨逸	三三	一五,〇〇〇,〇〇〇	一七,〇〇〇,〇〇〇
英國	四六	一三,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇
佛國	三二	一〇,〇〇〇,〇〇〇	六,七五〇,〇〇〇
白耳義	五	三,五〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇
ルクセムブルク	四	二,〇〇〇,〇〇〇	二,二五〇,〇〇〇

即ち其總生産力は第六位にあるも實際腰白耳義を凌駕して第五位を占むることあり、國士の廣袤、人口の多少の見地より言へば諸國中第一位にありといふべし、かく相對的に現著なる發達をなせるは、第十九世紀中葉に、國の南境に沿ひて約三千六百ヘクタールに亘りて延及し、ロレイン大鑛脈の延長せることを發見したるによる。

この國にては鐵鑛は露出し、其探掘は或は野天に於てし皆

は丘腹の坑道に於てす、其含鐵率は豊富ならず、僅に三割乃至三割五分にすぎざる貧鐵なり、されども燐を含むこと僅に二分に過ぎざるの利あり、ロレインの鑛脈は遂に多く地下にあり其實も亦優良なり故にこの國の鑛業者は其鑛區をロレインにて買得せり、ヨークスの供給は白耳義及獨逸の炭坑に對する投資によりて確保せらる、同業者は可成設備を完全に於て銑鐵製産に止まらず成るべく完製品をつくることに努力しラテンアメリカに輸出せらる。

○秘露國リマと其港カオヤ ヘルメ國首都里馬は時に王都と稱せらる、王都とは征服者ヒザローの命名せる所なり、里馬の開基は十六世紀初葉土人王侯インカスの西班牙服屬後にあり、同市は南米にて最古く又最歴史的都なり、西班牙人攻略後は久しく、大南米帝國の政府所在地にして碩學富豪の居住所たり、ヘルメ共和國となるヤリマ復其首都となり、今日は其狀況全く一變せしも尙ほ古跡を存す、里馬の人口は十八萬乃至二十萬、丘陵の上に立ちリマク河に沿ひ海拔五百呎にして太平洋を距ること僅に入哩なり、附近の地は溪谷灌漑地を除き概れ砂土なり、氣候は一般に不快濕潤なるも快晴の季節亦長し、サンマルコス大學は米大陸最古の大學也國立博物館は考古學上の遺物に富む、住民華奢にして其生活費の高きこと恐らく南米第一ならん貿易は大卸賣商人の手にあり、米、英、伊、佛、支等の外國資本の支配をうくるもの多し、海港カオヤは其の開口にして八哩の鐵道あり電鐵、コ

ンクリート道路の便あり、製造工業は多くこの港の附近にあ

り醸造、製粉、石鹼、鋳物、鐵工、墾削、索製、衣服等の工場あり、但し大綿工場は里馬にあり食料品機械車輛、綿布木材石材、雜貨を輸入し棉花、石油、砂糖、銅、棉質棉子粕、棉子油、牛皮獸皮等を輸出す。

○大正十四年十月一日國勢調査の結果による

日本内地人口(三)

埼玉縣	一、三三四、〇六一	入間郡	三三八、二九四	本庄町	一七、二五四	群馬縣	一、二八八、八八八
川越市	三三、九〇五	所澤町	一〇、三三四	兒玉町	四、七三四	前橋市	七三、六九六
北足立郡	二五、六九六	豐岡町	七、五三三	各村合計	五八、七六一	高崎市	四三、五五三
浦和町	一八、二五三	入間川町	七、六八二	大里郡	一七、四七六	桐生市	四一、五五三
蕨町	七、三四〇	坂戸町	四、四四三	熊谷町	二七、〇三三	勢多郡	一八、一六一
川口町	一七、九三三	越生町	四、九三三	妻沼町	三、七九六	大胡町	六、四四九
草加町	五、九四一	飯能町	一〇、一七三	深谷町	一四、九四一	各村合計	一一、七三三
鳩ヶ谷町	七、〇九七	各村合計	一三、〇六七	北埼玉郡	一五、二六六	群馬郡	一七四、五五三
與野町	六、九八七	比企郡	六、七六六	忍町	一三、三四〇	倉賀野町	四、〇一六
大宮町	二五、一〇九	松山町	八、三六〇	羽生町	七、一三〇	室田町	六、三〇〇
上尾町	三、九七〇	小川町	六、九八八	加須町	四、六六六	箕輪町	四、四四四
桶川町	四、三三三	各村合計	八、四八八	駒西町	二、五二六	總社町	三、七九六
鴻巣町	七、一七九	秩父郡	二〇八、五八六	各村合計	一三九、五九四	金古町	三、一〇〇
原市町	三、一〇九	秩父町	一五、七三三	南埼玉郡	一三六、三三五	澁川町	二、三三三
志木町	三、七九三	小鹿野町	五、〇〇九	岩槻町	七、一四四	伊香保町	三、〇三三
大和田町	四、三四四	各村合計	八七、五三六	粕壁町	六、六八四	各村合計	二二、六六八
各村合計	一七、七五五	兒玉郡	八、七九六	越ヶ谷町	四、二二三	多野郡	六、七五〇
				大澤町	二、六八三	藤岡町	九、四三六
				久喜町	四、一六六	新町	八、七五四
				菫蒲町	四、五〇〇		
				各村合計	一〇八、六六六		
				北葛飾郡	八八、〇八三		

鬼石町	四、三〇一
吉井町	六、三三三
各村合計	五〇、五五二
北甘樂郡	八三、三三七
富岡町	三、〇五三
一ノ宮町	三、三三三
妙義町	二、八二二
下仁田町	四、九七九
小幡町	四、六四四
福島町	三、七五五
各村合計	五二、八三三
碓氷郡	五五、二三三
安中町	七、八四四
原市町	四、八〇九
松井田町	四、〇一一
白井町	三、八三三
板本町	三、五三三
板鼻町	一、九四四
各村合計	四〇、二四四
吾妻郡	六三、五七七
中之條町	五、八六六
原町	三、五八〇
長野原町	五、八八七
草津町	三、五二二

各村合計	四一、七五五
利根郡	八、一五二
沼田町	一三、三三三
各村合計	六六、四四五
佐波郡	一〇三、三三三
伊勢崎町	一八、四四五
境町	五、四九九
玉村町	五、四四一
各村合計	七三、六六六
新田郡	六九、五九九
太田町	六、八三三
尾島町	八、一九〇
木崎町	三、〇三三
藪塚木町	五、三六〇
各村合計	四一、七五五
山田郡	四四、三三三
大間々町	七、三三三
各村合計	四四、三三三
邑樂郡	六三、六六六
館林町	一七、四三三
小泉町	四、一六六
各村合計	七、三三三
千葉縣	一、三三三
千葉市	四、一六六

安房郡	一六三、〇六六
北條町	八、九二二
館山町	八、〇四四
那古町	四、三三三
船形町	六、三三三
勝山町	五、〇五五
保田町	五、三三七
千倉町	七、三三三
和田町	三、三三三
鴨川町	六、九七七
天津町	六、三三三
各村合計	九、五五五
夷隅郡	六九、三三三
興津町	五、三六六
勝浦町	七、〇三三
大多喜町	四、〇五五
國吉町	三、三三三
御宿町	四、四六六
大原町	八、二二二
長者町	三、三三三
各村合計	五、七五五
君津郡	一三、三三三
木更津町	九、三三三
久留里町	四、三三三

富津町	四、七八八
大貫町	四、五五五
佐貫町	三、七三三
各村合計	一〇三、三三三
長生郡	八六、二二二
一宮町	四、五七七
本納町	三、五五五
茂原町	七、〇〇八
廳南町	三、三三三
各村合計	六七、三三三
山武郡	二六、三三三
東金町	九、五五五
土氣本郷町	三、八七〇
大網町	二、三三三
成東町	四、三三三
松尾町	三、三三三
横芝町	三、三三三
各村合計	八八、七三三
市原郡	六九、三三三
八幡町	四、一六六
五井町	七、六六六
姉崎町	五、四三三
牛久町	四、三三三
鶴舞町	三、三三三

各村合計	四五、六六
千葉郡	八四、一〇七
蘇我町	四、三三〇
檢見川町	七、七七一
幕張町	六、七六六
津田沼町	二、九四一
大和田町	三、三三三
各村合計	五〇、二二〇
東葛飾郡	三三〇、八七三
浦安町	一〇〇、〇〇〇
行徳町	七、七六一
船橋町	二九、二六三
中山町	五、三三八
八幡町	四、五七七
市川町	一六、五三七
松戸町	九、六五五
小金町	二、八三〇
流山町	四、八六七
野田町	一八、〇九〇
關宿町	二、八六六
我孫子町	四、九四五
布佐町	二、三三三
各村合計	一〇三、六四九
印旛郡	一五、七三三

質疑應答

白井町	二九、九
佐倉町	七九、三
酒々井町	四、三六六
八街町	二、三六一
大森町	三、五五五
木下町	三、四二二
安食町	四、七六七
成田町	八、三三二
各村合計	八八、二七〇
香取郡	一八、五五九
滑河町	二、二二二
神崎町	二、六七七
佐原町	一六、四六二
香取町	四、二二六
小見川町	六、〇八〇
府馬町	三、二二〇
栗源町	四、五六六
多古町	六、四七七
笹川町	三、七三三
各村合計	八八、九九〇
海上郡	九〇、五五三
本銚子町	二九、三三三
銚子町	二、七五三
西銚子町	四、四三三

旭町	七一、四〇
飯岡町	六、二八一
各村合計	四、六五五
匝瑳郡	四三、一〇〇
八日市場町	七、〇六九
各村合計	三六、〇三二

質疑應答

問 マツキーの所在地を承りたし(鳥羽MT生)

答 マツキー(伊 Macchie 佛 Maguis 又は M. kis)は地中海沿岸、西班牙の大部、コロンカ島などに分布して居る群落であるが、海濱と特別な關係があるのではなく、該地方の氣候、状態と聯關して出來た群落である。地中海地方は冬は雨は多いが夏の暑い時に雨が降らぬから、植物の發育は主として春の間に行はれる。草には夏の間球根で潜んで居るものも少くない、灌木や木は夏の間葉が萎れぬ様に硬くなつて居るもの(コルクがし、もちがし、カリーブのき其他)もあり又葉を無くし莖で同化作用を營んで居るもの(れだま、なぎいかだ等)もある。匂の強い植物も多い。兎に角く葉其他緑な器管の硬いものが多いから斯様な群落を硬葉林叢と呼んである米國加州のシヤツパラも之に類して居り、アフリカの南端濠洲の東海岸にも同様な氣候に支配せられた硬葉群落がある我國は雨が多いから斯様な群落は逆も見られない。多少葉の堅い植物もあるが所謂硬葉群落とは比較にはならない(KK)

問 近日點と遠日點と何故に冬至と夏至とが一致せざるか(岩見澤、櫻坂)